

高校進級・進路・入学相談

高校への進級、進路、入学に関して、電話又は来所などにより相談及び情報提供を行っています。
また、必要に応じて資料の発送も行っています。

内容

高校の進級、進路、入学や卒業に関すること

高等学校卒業程度認定試験などに関すること

都立高等学校在学中の保護者から
「転学と編入学について、教えてください。」

中学校の先生から
「通信制の高等学校は都立にも私立にもありますが、どこが違いますか。」

電話相談

平日 午前9時から午後9時まで
土日祝日 午前9時から午後5時まで
(年末年始等を除く)
* 上記以外及び閉庁日は、留守番電話及び電子メールにより対応しています。
**電話番号：03-5800-4175
03-5800-8008**

来所相談

平日 午前9時から午後5時まで
* お申し込みは電話相談から受け付けています。

外国在住の保護者から
「現在、外国に住んでいます。都立高等学校に通いたいのですが…。」

中学校在学中の保護者から
「チャレンジスクールはどういう学校ですか。」

教育相談関係資料の紹介

授業改善や校内研修等に活用できる資料のうち3点を紹介します。当センターのホームページで御覧いただけます。

○学校教育相談推進資料（改訂版） 「子供の心が開くとき 子供と心が通うとき」（平成19年3月）

学校生活における教育相談的対応について、20のキーワードで整理しています。また、教育相談の姿勢を生かした授業の視点を、1時間の授業の流れの中でまとめています。

○広報「すこやかさん 第19号」（平成19年8月）

子供たちの対人関係能力を高めるために、学校で行う「ソーシャルスキル・トレーニング」について、紹介しています。

○「東京都教育相談センターだより第33号～第38号」（平成20年6月～11月）

「気がかりな子供たち」を6タイプに分けて、学校で見られる様子や子供の特徴、かかわりのポイントについて、まとめています。



広報

すこやかさん

東京都教育相談センター
http://www.e-sodan.metro.tokyo.jp

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-3-3
TEL 03-5800-8545(代表) FAX 03-5800-8402



第23号
平成20年12月発行

見ようとしないと見えてこない子供の気持ち

東京都教育相談センター 統括指導主事 河合 雅彦

当センターでは、教職員の相談を受け付けています。昨年度は 985 件寄せられ、その約 25%が児童・生徒の理解や指導に関するものでした。

その主たる内容は、発達障害の子供の指導や自傷・他害等の対応となっており、教職員が子供たちの理解や対応に苦慮している様子が伝わってきます。

■肯定的に子供に接しましょう

児童・生徒の指導には、肯定的に子供の行動を受け止めることが大切です。そして、子供自身に自らを振り返らせることが必要となります。

問題を起こす子供の中には、例えば、自信がなかったり他人から嫌われているのではないかという気持ちになったりすることが多くあります。

何が問題となってそのような行動を引き起こしているのか、子供の気持ちをくみ取り、肯定的にかかわっていくことが重要です。

■柔軟に子供を受け止めましょう

教師の見る視点によって、子供のとらえ方は異なります。例えば、活発に動き回る子供を、「元気で明るい子供」又は「落ち着きのない子供」ととらえるなど、教師は、自身の価値観や固定概念で子供を見てしまうことがあります。

また、一つの場面だけで子供の態度や行動を判断してしまうと、指導を誤ることにつながります。

教師は自己の経験などの枠組にとらわれることなく、柔

軟に子供を受け止めることが必要となります。

■子供の行動の背景をとらえましょう

子供は、同じ行動をとってもその背景は一人一人違います。それは、子供自身の思いや理由があるからです。

例えば、してはいけないことと分かっている、そのような行為をした自分を分かってほしい、受け止めてほしいと思っている場合もあります。

行動の背景にある子供の気持ちや考えは、見ようとしなければ見えてこないものです。

教師として、子供の気持ちを察して教育相談的なかわりで子供に接することが、子供の理解につながります。

今日の子供の姿と明日の子供の姿は違います。子供は、日々、成長し、教師が認めることで変わっていきます。

例えば、授業中に子供が離席してしまうとき、なぜ、そのような行動をとるのか、また、その行動に駆り立てる子供の気持ちはどのようなものであったかなど、様々な視点から探ることが必要となります。

授業は子供にとって楽しいものでなければなりません。子供の目線や発達段階を考慮しながら行動の背景をとらえ、育てていくことが大切です。

今回は、「子供の行動の背景にあるものをとらえる」をテーマとしました。行動の背景にある子供の気持ちを深く理解することは、子供の気になる行動への支援につながります。

相談のご案内

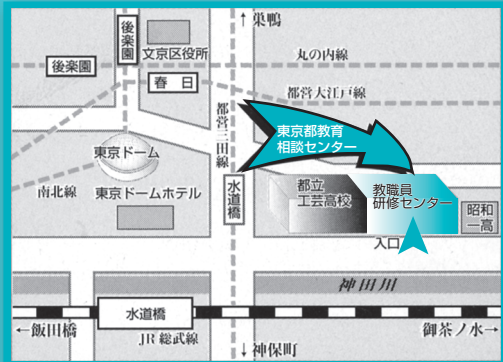
受付電話番号 **03-5800-8008**

○電話相談／平日 午前9時から午後9時まで
土・日・祝 午前9時から午後5時まで（年末年始等を除く）
* 上記以外及び閉庁日は、留守番電話及び電子メールによる対応をしています。メールは、ホームページから入れます。
<ホームページ> http://www.e-sodan.metro.tokyo.jp

○いじめ相談ホットライン／24時間対応 03(5800)8288

○来所相談／平日 午前9時から午後5時まで
* 電話でお申し込みください。
* 立川出張相談室（立川市錦町6-3-1）においても応じています。

○所在地／〒113-0033 東京都文京区本郷 1-3-3



JR 総武線・都営地下鉄三田線水道橋駅下車 徒歩2分
東京都教職員研修センター内



子供の行動の背景にあるものをとらえる



子供の個性や周囲の環境は一人一人違うため、同じ行動をとっていてもその背景にあるものは様々です。その行動だけをとらえて対応するのではなく、なぜそのような行動をとったのか、子供の個性や行動の特性、周囲の環境を把握し、子供の立場に立った教育相談的なかわりが大切です。

東京都教育相談センター
では、教職員からの相談を
受け付けています。

電話相談総合受付
03-5800-8008

子供の行動の理由を探りましょう。

子供の行動をチェックし、理由を検証してみましょう。

具体的な対応を考え
ましょう。

(例1) 授業中に、無断で教室から出るAさんについて

予測される理由

- 周りの子供が騒がしくて、落ち着くことができなかった。
- 教員の話している内容が分からず、授業にあきてしまった。
- 教室の外から、楽しそうな声が聞こえてきたので、見に行きたくなった。
- 毎朝、飼育小屋のウサギを見に行くのに、今日は寄れなかったため、どうしても気になって見に行きたくなった。
- 他の学級の友達のことが気になり、話をしたくなった。
- 指名をされることが不安で、緊張しておなかが痛くなり、トイレに行きたくなった。
- 間違った答えを言ってしまう、友達からひやかされ、イライラしていた。

など

(例2) 遅刻が増えてきたBさんについて

予測される理由

- 授業開始前に教室に入るとからかわれるので嫌だった。
- 家族との関係がうまくいっておらず、食事を一緒にとりたくないので、朝食の時間が遅くなった。
- 毎朝、登校前にテレビを見るようになり、夢中になって学校のことをつい忘れるようになってしまった。
- 最近ネットゲームにはまっていて、明け方までやっているの、寝坊した。
- 最近、髪を切ってから髪型が思うように決まらなくなり、イライラして、納得できるまで繰り返しやり直していた。
- 不安なことが多く、明け方まで眠れず、朝、起きられなかった。

など

そのときの行動や環境を把握する

子供の状況

- その行動をとったきっかけは何ですか。
- その時の本人の様子や表情はどうでしたか。
- その行動がおさまったのは、どのようなときですか。

周囲の状況

- 周囲の人の様子はどうでしたか。
- 本人にとって気になるようなことやものがありましたか。

これまでの行動の背景を把握する

子供の行動

- その行動は初めてですか。
- その行動が起きないのは、どのようなときでしたか。
- これまで子供自身はどのように解決を図りましたか。
- 子供が好きなこと、得意なことはどんなことですか。
- 幼少期の様子はどうでしたか。
- 過去に相談歴、治療歴はありましたか。

友達との関係

- 一対一のかかわりはどうですか。
- 集団の中での行動はどうですか。

家庭での様子

- 家族との関係はどうですか。
- 家庭と学校での行動の違いはどうですか。
- 家庭ではどのように解決を図りましたか。

学校での子供の行動は、教師のかかわり方で変わります。

(例)

不安やイライラ感への対応

- 子供の心情を理解し、十分に支える。
- イライラ感の原因を探り、解決法を子供と一緒に考える。

環境の調整等

- 座席の配置を工夫する。
- 教室の掲示物を整理する。
- 授業の構成を工夫する。

本人への配慮

- あらかじめ挙手のルールを全体で決めておき、本人が指名してほしいとき、してほしくないときのサインを、相談しておく。
- 前日中に、持ち物を揃えてチェック票に印を付けたり、朝の一定時刻にアラームを設定したりするなど、登校の準備がスムーズになる方法を子供と一緒に考える。

友達とのかかわりへの配慮

- 友達同士がかかわり合える場(グループ活動、話し合い活動など)を工夫する。
- 友達とのかかわり方について、子供の話を聴き、適切なアドバイスを与える。

家族との連携

- 家族の気持ちを聴き、どうすれば家族との関係がうまくいくかを共に考える。
- 家庭でうまくいった解決法を検討し、学校でも取り入れていく。

子供の立場に立ったかわり方

行動だけをとらえて対応するのではなく、子供の個性や行動が起きた状況などを総合的にとらえ、対応を考えましょう。

○子供と一緒に考える

- ・子供の話を丁寧に聴きましょう。
- ・どうやって解決したらいいかを子供と一緒に考えましょう。

○分析し、対応する

- ・どんなときにその行動が起きるか、記録を付けましょう。
- ・望ましくない行動については、予防できるような対策を考えましょう。

○家族と共に考える

- ・家族と情報交換し、対応方法を考えましょう。

○校内で共通理解する

- ・行動に対する対応を、校内で共通理解しておきましょう。

○連携をする

- ・必要に応じ、相談機関や医療機関と連携しましょう。